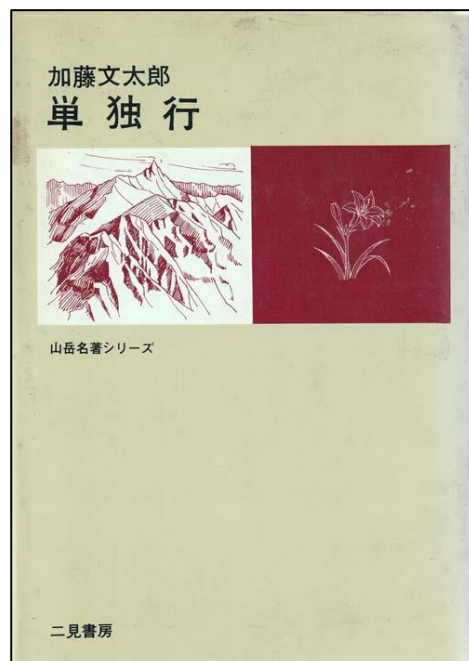


# 単独登山を考える

藤井 諭

世間によく言われるのが、「一人の登山は危険だから、必ず誰かと一緒に行くべきだ」と言うこと。自分にとってこれほど無理解な言葉はない。その“誰か”が未経験な人ほど登山の危険度は増すのだ。相手が途中で怪我をすれば救助のために自分が危険に立たされることになる。最大の遭難事故は八甲田山の雪中行軍だ。青森連隊は無知な指揮官の誤った判断で210人中199名も亡くなる悲惨な遭難だった。一方の弘前連隊は雪山をよく知る隊長のもと無事に帰還した。リーダーの判断が如何に生死を分けるかが結果で示された。

加藤文太郎は名著「単独行」(右写真)を記した。日本一の不死身の単独行者と言われながら、冬の槍ヶ岳で無謀な同行者を伴ってしまい、ザイルパートナーの救助を強いられて深雪の中で命を落としてしまう。単独行者には加藤文太郎に続き植村直己、現在では田中陽希がいる。彼らは人々を感動させる実績を上げてきた。共通するのは綿密な計画で用意周到であることだ。山と対話し自然に神経を研ぎ澄ませる感性を持つ。自分の体力、経験を自覚して細心の注意で実行し、計画の変更や断念を厭わない。植村直己は「青春に山をかけて」など多くの著書の中でそのことを繰り返し書いている。用心深い彼が冬のマッキンリーに消えた時はフアンとして実に残念だった。



振り返ると学生時代の山岳部、東京の奥多摩山岳会、松江ハイキングクラブと、常に組織の中にいて登山を続けてきた。組織の魅力は技術の向上が図れ、面白い山行に参加でき、山の事故に対処でき、色々な山仲間が得られるなどである。深雪のラッセル登山やザイルで繋ぐ岩登りはパーティでなければ得られない。厳冬期の船通山を偵察し、ラッセル要員を呼びかけたら、早速数名の山仲間意思表示いただき心強く思っている。色々な山仲間と山の話をしながらかく時間は実に楽しいものだ。

その一方で単独登山が好きな自分がいて、そこで得た充実感はより大きい。まず1975年のモンブラン(4807m)、ユングフラウ(4158m)の登頂がある。いずれもガイドなしで自分の登山技術でピッケル、アイゼンを使い登り切った。当時は奥多摩山岳会で活動し、同志でヒマラヤを目指し冬山を登っていた。年末から正月にかけて北アルプスの山頂を目指して合宿し、夏は真砂沢に定着し剣岳の岩場を登った。そこで雪と岩の技術を得た私にとってガイドは不要だった。

MHCに入ってから単独登山を続けた。夏季は1999年笠ヶ岳～槍ヶ岳縦走、2000年鷲羽岳・水晶岳・雲ノ平・黒部五郎岳・薬師岳縦走、2001年白馬岳・不帰ノ嶮・五竜岳・八峰ノキレット・鹿島槍ヶ岳・爺ヶ岳の一气縦走、2003年木曾駒ヶ岳・宝剣岳・三ノ沢岳・空木岳縦走、2007年荒川三山～赤石岳縦走を行った。GWのアルプスは

積雪1m～10mの中を登った。2007年は奥穂高岳の稜線が凍った雪で厳しかったが山頂に立った喜びは忘れがたい。2010年五竜岳～唐松岳縦走、2011年燕岳～常念岳縦走、2012年鳳凰三山縦走、2013年霞沢岳と西穂独標、2015年立山と奥大日岳、2018年の鹿島槍ヶ岳は柏原新道が雪で閉鎖され登山道のない爺ヶ岳南尾根を登った。そして今年4月の中央アルプスと、単独登山ではほぼ計画通り成し遂げてきた。

これらの単独登山に対しては、前の年から綿密に計画を立てている。公共交通機関を使えば縦走のコース設定は自由である。地図・書籍やWEB等で最新の情報を入手して計画書を作り、現地に問い合わせで見直し修正し、天候の悪化等による変更計画も加える。計画書は必ずクラブ会長に早めに提出し、家族にも計画書を渡しておく。スマホのGPS地図、天気ソフトを確認し予備充電器（3日間はスマホが使える）は必ず持参する。出発時には緊張感と共にワクワク感がたまらない。

山中では写真を撮りながら山とじっくり対話する。目・耳・神経を研ぎ澄ませ、危険を察知したら回避方法を判断して素早く行動する。GPSでこまめに現在地を確認し、道を誤ったら素早くトレース図に従い元に戻る。いざという時はビバークできる装備を怠らず、非常時の外部連絡・情報入手はスマホ、笛、ラジオ等で行う。単独登山はすべての判断が自分にかかり、結果はすべて自己責任である。一方では同行者がいないので足を引っ張られることはない。未熟なリーダーに誤った判断をされ危険に陥ることもない。

運も良かったが単独登山で山の事故にあったことは今まで一度もない。天候の急変、道迷い、靴の破損、疲労でペースダウンなどのトラブルはあったが、自己判断で切り抜けて来られた。一方で年と共に体力は少しずつ衰え、若い頃と同じペースで登るのは難しくなってくる。持久力にはまだ自信があり、去年の鹿島槍では1日12時間歩いて達成できた。単独だと無理なく自分のペースで歩け、好きなところで休憩や写真撮影ができる。調子が悪ければ引き返しやルート変更も自由にできるのがメリットだ。山とおしゃべりし、気が向けばカラオケを歌い、変化する雄大な風景を写真に納めるのは誠に楽しい。

逆説かもしれないが「**単独登山は最も安全な登山でもある**」と言えないだろうか。パーティでしか登ったことのない方は、できる山から単独登山の経験をされることを勧めたい。計画から始めて自主性が高まり、山の感性が研ぎ澄まされ、自立して登山がいつそう楽しくなる、と自信を持って言える。最近アルプスでは単独登山の女性にもよく会うようになった。まだ経験のない方は、単独でのアルプス縦走を目指してみませんか。